

二〇二〇年二月一四日

日溜りの大地にここだ名草の芽
菜種梅雨ぱつと明るき窓日欲し
雑踏の行きかふ人ら皆マスク
佐保姫来街の花屋の鉢々に
近道は野路を行く道風光る

二〇二〇年二月一三日

歩を少し延ばす散歩や四温晴
道祖神過ぎて峠の梅見茶屋
校訓は質実剛健梅真白

二〇二〇年二月一二日

白杖の足を止めたる夜の梅
春の色溢れしめ花舗全開す
敷石の窪みにひかる薄氷

二〇二〇年二月一日

錫杖の音すれ違ふ遍路道
咲き初めし白梅ほのとうすみどり
冴え返る禅の廊下の黒光り
杉の秀を貫き春日燦燦と

かかし

明日香

ぽんこ

もところ

せいじ

やよい

素秀

菜々

素秀

たか子

愛正

素秀

菜々

宏虎

明日香

二〇二〇年二月一〇日

芝焼や煙がくれに火の走る
紅白の盆梅香ほる書道展
菜の花のひと碗に卓華やぎし
深海魚漂着の浜風花す

二〇二〇年二月九日

梅東風に高鳴るハート祈願絵馬
路地寒し無言の会釈足早に
浮寝鳥日射しに胸をふくらませ
咲き初めて父の遺愛の梅真白

二〇二〇年二月八日

若芝に揺らぐかと見ゆ力石
春寒し石積のみの無縁墓
蔵町の甘き匂ひや寒造

そうけい

智恵子

たか子

こすもす

やよい

満天

なつき

菜々

素秀

菜々

智恵子

毎日句会みのる選・二〇二〇年二月一六日